



震災からの復興・防災と男女共同参画

東日本大震災の発生から丸7年。震災の記憶を風化させないため、そして地域の復興・心の復興を着実に前に進めるために、毎年3月11日を振り返ることは大切なことと思います。

県では、平成23年度から10年間を計画期間とする「宮城県震災復興計画」を策定し、各事業を進めてきました。「復旧期」「再生期」「発展期」の3期に区分した本計画のうち、平成30年度は、県勢の発展に向けて戦略的に取り組みを推進していく「発展期」スタートの年度に当たります。

東日本大震災では、男女のニーズの違いや多様な生活者の視点に配慮した防災・減災対策、地域住民の自助・共助の取組の重要性が指摘されました。災害時も性別や年齢、障害の有無、国籍等々にかかわらず、避難所等において被災者一人ひとりの人権が守られ安全に安心して生活できるようにするためには、平常時から男女共同参画や多様な視点からの防災・減災の取組について理解を深め、実践していくことが重要です。

これらの教訓を踏まえて、県では平成25年11月に「男女共同参画・多様な視点 みんなで備える防災・減災のてびき」を発行しました。このてびきを活用して、地域や企業等で防災・減災に取り組むリーダー養成や共通理解を図ることを目的として、平成25年度から「男女共同参画・多様な視点からの防災実践講座」を毎年開催しています。これまで計33回開催し、1,847人が参加しました。

県では、ふるさと宮城の復興に向けて、今後も継続した取組を進めていきます。

「男女共同参画・多様な視点からの防災実践講座」



※ 平成29年10月12日に亘理中央公民館で開催した際の様子。約150人の方々に参加されました。

「男女共同参画・多様な視点 みんなで備える防災・減災のてびき」



※ 英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、タガログ語、ベトナム語版もあります。

